

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日:2020年12月1日

事業所名: 放課後等デイサービスえーるきた

事業所職員及び保護者の方の御意見を踏まえ、自己評価の結果を公表します。
 評価を踏まえて、事業所の運営における課題点及び改善すべき点を確認し、今後の運営に活かしていきます。

区分	チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価				評価を踏まえた 改善内容・改善目標	
		はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		保護者の方のご意見
環境・ 体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	5	0	0	プレイルーム、SST個室、サブルームに分室している。	31	0	0	0		
	2 職員の適切な配置	5	0	0	人員を確保し、勤務体制表を掲示している、	26	2	0	3		人員確保はできているので連携を強化したり専門性を強化したりしていき、理解を促していく。
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障がい者の特性に応じた設備整備	1	4	0	静かな環境が必要な場合は。その都度場所を確保している。	26	2	1	2	おもちゃの整理等遊びやすい環境づくりをお願いします。	・予定の変更などを個別に伝えられるよう準備しておく。 ・外遊びをできる時間を視覚化して伝わりやすくしていく。 ・玩具棚にある玩具の量を減らし定期的に入れ替えていく。また視覚的に分かりやすく整理していく。
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	5	0	0	・一日数回、決まった時間にそうじと消毒をしている。 ・コロナ対策として加湿器や噴霧器を使用したり、喚起を定期的に行ったりしている。手洗い後のタオルは児童ごとに準備して毎日洗濯している。	27	2	0	1	※無回答 1	・定期的なそうじに加えて外回りの清掃を増やし、環境を整えていく。 ・コロナ対策の取り組みは、引き続きお便り等で伝えていく。
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	2	2	1	改善のための話し合いや情報の共有はこまめに行っている。	/	/	/	/	/	個別のPDCAサイクルについても振り返る時間を持つようにしていく。
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	5	0	0	定期的に様々な分野の研修を行っている。今年はコロナの影響で外部への研修は参加していない。	/	/	/	/	/	週2回の会に定期的に行っているが、コロナ収束時以降には対外研修や講演を受講していく。

区分	チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価				評価を踏まえた 改善内容・改善目標	
		はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		保護者の方のご意見
適切な支援の提供	1	5	0	0	アセスメント表やモニタリングや支援会議での内容を確認し、共通して理解できるように努めている。	30	0	1	0	事業所での支援計画になっているように感じるため要望を反映させてほしい。	保護者の要望やニーズをモニタリングや会議の場で確認する機会を持ち、目標や今後の課題を共有し、さらに支援計画に反映し作成していく。
	2	5	0	0	モニタリング、支援会議、日頃の様子などから具体的な支援内容(長期・短期・生活面・コミュニケーション面等の目標)を記載している。	29	1	0	0		支援計画を提示し、保護者と一緒に内容を確認し、認識のズレがないか話し合うようにしていく。また、中間での見直しも定期的に行い、支援計画に反映させていく。
	3	5	0	0	職員間では児童の状況についてよく話し合い、本人に無理のないように個別活動(SSTや特化プログラム)、集団活動(クラブ活動や課題遊び、イベントなど)を組み合わせている。						引き続き個別・集団での活動を取り入れ、計画に記載していく事で、それぞれの児童の目標を明確にしていく。

区分	チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価				評価を踏まえた 改善内容・改善目標		
		はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		保護者の方のご意見	
適切な 支援の 提供 (続き)	4	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	4	1	0	日頃の状況や取り組み(身近な課題)は職員間で伝え話し合い、支援に生かしている。長期目標に沿った支援の振り返りが少ない。	29	1	0	1	事業所での支援計画の作成に沿った支援になっているかどうかはよくわからない。	保護者からの要望を確認し計画を作成していき、さらに確認同意をして頂いた上で支援の方向性にズレがないよう保護者職員間での連携を図り信頼感を深めていくよう努力していく。また、事業所内で計画に沿った支援の振り返りや反省を終礼で確認していく。
	5	チーム全体での活動プログラムの立案	4	1	0	児童の様子の共有はできているが、活動に対する「ねらい」を振り返る機会が減っている。	/	/	/	/	/	朝礼時に現状の「とらえ」と活動に対する「ねらい」を確認していく。
	6	活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	5	0	0	日替わりのクラブ活動、個別のSST、特化プログラム、課題遊び(長時間の利用の日)、おでかけやイベント等を活動内容に盛り込んでいる。	26	3	0	2	色々な活動、課題等が提供されている。	連絡ノートや送迎時、またはお便り等で活動の内容を引き続き伝えていく。
	7	平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	3	2	0	平日はSST、休日は特化プログラム、SSTやおやつ作り、長期休暇は休日の内容に加えておでかけやプールや体育館での活動をしている。また、個別のスケジュールを活用して一日の流れがわかるよう伝えている。	/	/	/	/	/	余暇時間を充実させるため、休日においても課題遊びをしていく。個別のスケジュールに関しては、より伝わりやすいよう状況や発達に応じて、改善していく。
	8	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	5	0	0	毎日、朝礼にて役割や児童の様子等確認している。	/	/	/	/	/	引き続き、朝礼にて確認を行っていく。
	9	支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	3	2	0	ケースノートを使用し、毎日振り返りや情報の共有を行っている。	/	/	/	/	/	業務に入る前に、ケースノートを必ず確認することで、漏れなく情報を共有できるようにしていく。ケースノートにはSSTの前後など個室での様子に特筆する事があれば、記入し共有していく。
	10	日々の支援に関する正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	5	0	0	個別記録、日誌、ケースノート、個室の記録、特化プログラムの記録、就労体験の記録など、活動ごとに細やかに記録している。また、ヒヤリハットにおいては全体で共有して対策を話し合っている。	/	/	/	/	/	引き続き記録し、状況に応じた支援を検討していく。

区分	チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価				評価を踏まえた 改善内容・改善目標					
		はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		保護者の方のご意見				
	11				定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	3	2	0	定期的なモニタリングを実施し、計画を作成している。見直しについては期間を決めて行っている。						計画の作成や見直しの内容を保護者と確認し、職員に周知していく。
関係機関との連携	1				子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議への参画	5	0	0	児童発達管理責任者や児童の担当者が参画し、共通認識を持てるようにしている。						引き続き行っていく。
	2				(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施										
関係機関との連携(続き)	3				(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備										
	4				児童発達支援事業所及び放課後等デイサービス事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	0	5	0	相談支援事業所や発達支援課からの資料や、保護者からのアセスメント等で確認している。						支援内容の共通理解や共有を図るため、必要に応じて会議を増やせるよう検討していく。
	5				他の障害福祉サービス事業所等への円滑な移行支援のため、それまでの支援内容等についての十分な情報提供	1	4	0	相談支援事業所を通して支援内容等を伝えていく。						相談支援事業所との連携を図り、引き続き情報を提供していく。
	6				児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	1	4	0	支援会議や市の連絡協議会等で連携をとっている。また、職員の資格取得に関する研修の受講も行っている。						引き続き専門機関との連携を図り、研修を受講していく。
	7				児童発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障がいのない子どもと活動する機会の提供	0	4	1	児童館や地域へのお出かけ等を行っている。(今年はコロナ対策のため、前年よりは減っている。)	10	3	3	13	今は控えているようなので「どちらとも言えない」につけました。 ※無回答 2	引き続き、控える時期を見極めつつ、コロナ対策をした上で、地域へと出たり地域の人と交流する機会を持てるようにしていく。

区分	チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価				評価を踏まえた 改善内容・改善目標	
		はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		保護者の方のご意見
	8				イベントでは地域の方にボランティアで参加していただいたり、出前講座を利用している。						引き続き、控える時期を見極めつつ、コロナ対策をした上で、地域へと出たり地域の人と交流する機会を持てるようにしていく。
保護者への説明責任・連携支援	1				契約時にはアセスメント等で支援の内容を具体的に決めている。その後は連絡ノートやモニタリング等で支援の内容を伝えている。利用者負担に関しては、重要事項説明時に伝え、お問い合わせにも、その都度対応している。	31	0	0	0		引き続き、丁寧な説明を心掛け行っていく。
	2				説明は保護者と対面して毎回行っているが、丁寧さに欠ける事があった。	29	2	0	0	少しはある。	引き続き、説明して確認して頂く機会を持ち、保護者の要望等とズレがないよう話し合っていく。
	3				保護者のお茶会の中でペアレントサポートプログラムを実施している。	28	1	0	2		引き続き実施し、えーるたよりやイベント案内等にて記載し、伝えていく。
保護者への説明責任・連携	4				連絡ノートに書いたり、送迎時に伝えたりしている。必要な時は、電話や対面して話し合いをしている。	28	1	0	2	日頃の状況はなされているが、課題についての共通理解となると、わからない。	課題については、保護者と支援の方向性が違わないよう、支援計画作成時にお互いの認識を確認していく。
	5				保護者から相談を受けた場合は、その都度対応している。必要場合は支援会議を持つようにしている。	28	2	0	1		相談しやすい雰囲気づくりに配慮していき、えーるたより等で相談や話し合いのできる日程を記載していく。
	6				保護者同士のつながりを持つため、お茶会を2ヶ月に1回程度設けている。(今年はコロナの関係で回数が少なくなった。)	27	0	0	1	※無回答 3	引き続き行っていく。
	7				職員には、苦情に対する対応の周知や体制づくりを行っている。また、玄関には苦情ボックスを設置している。	21	1	0	6	※無回答 3	保護者に対して、苦情ボックスの周知を行っていく。

区分	チェック項目	事業所の現状評価			保護者の方の評価				評価を踏まえた 改善内容・改善目標		
		はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらとも いえない	いいえ		わからない	保護者の方のご意見
6	ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	5	0	0	事業所全体で事例を共有し、報告書を作成し、再発防止の対策をとっている。その後、事業所間(えーる・えーるいーすと)でも情報の共有をしている。	/	/	/	/		引き続き記録に残し再発防止の対策をしっかり行っていく。